# 第２ 【事業の状況】

## １ 【生産、受注及び販売の状況】

第１四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年３月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年３月21日）を適用しておりますが、前年同四半期比につきましては、前年同四半期と比較し実質的にセグメント区分の変更がないため、前年同四半期における事業の種類別セグメント情報との比較数値を記載しております。

(1) 生産実績

当第３四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 生産高(千円) | 前年同四半期比（%） |
|---|---|---|
| 乗換案内事業 | 710,724 | △4.1 |
| マルチメディア事業 | 220,626 | ＋69.5 |
| その他 | 15,947 | △40.2 |
| 合計 | 947,298 | ＋5.5 |

（注）１ セグメント間取引については、相殺消去しております。
２ 金額は、販売価格によっております。
３ 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第３四半期連結会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 受注高(千円) | 前年同四半期比(%) | 受注残高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|---|---|---|---|---|
| 乗換案内事業 | 51,885 | △4.3 | 161,951 | ＋19.0 |
| マルチメディア事業 | ― | △100.0 | ― | ― |
| その他 | 20,204 | △8.7 | 220,229 | ＋176.8 |
| 合計 | 72,089 | △8.0 | 382,180 | ＋77.2 |

（注）１ 金額には、消費税等は含まれておりません。
２ セグメント間取引については、相殺消去しております。
３ 受託開発以外の製品については見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当第３四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円) | 前年同四半期比（%） |
|---|---|---|
| 乗換案内事業 | 915,033 | △5.8 |
| マルチメディア事業 | 214,997 | ＋67.6 |
| その他 | 24,393 | △30.0 |
| 合計 | 1,154,424 | ＋1.8 |

（注）１　金額には、消費税等は含まれておりません。
　　２　セグメント間取引については、相殺消去しております。

## ２ 【事業等のリスク】

当第３四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

## ３ 【経営上の重要な契約等】

当第３四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

## ４ 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第１四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年３月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年３月21日）を適用しておりますが、前年同四半期比につきましては、前年同四半期と比較し実質的にセグメント区分の変更がないため、前年同四半期における事業の種類別セグメント情報との比較数値を記載しております。

(1) 経営成績の分析

当第３四半期連結会計期間（平成23年４月１日～平成23年６月30日）におけるわが国経済は、平成23年３月11日に発生した東日本大震災の影響もあり、雇用情勢は依然として厳しく設備投資に弱い動きが見られるなかで、一部に持ち直しの動きが見られたものの、海外の経済環境に留意する必要があり先行きは不透明な状況となっております。

情報通信業界におきましても、企業のソフトウェア投資は緩やかな減少から横ばいへと変化しておりますが、情報サービス業の売上高は前年同四半期（平成22年４月１日～平成22年６月30日）と比べ減少傾向にあるなど、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きに不透明感が残る状況となっております。このような中、スマートフォンの急速な普及に加え、次世代ネットワーク（ＮＧＮ）の拡大や次世代高速無線通信サービスの開始等、メディアの融合に向けた動きが加速してまいりました。携帯電話・スマートフォンにつきましても、当第３四半期連結会計期間末（平成23年６月末）にはインターネット接続の契約数が9,800万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。携帯電話向けに提供いたしております「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」並びにスマートフォン向けに提供いたしております「乗換案内Plus」、無料版「乗換案内」の検索回数は平成23年６月には月間約１億5,000万回となっており、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第３四半期連結会計期間における当社グループの売上高は1,154,424千円（前年同四半期比1.8％増）、営業利益は140,795千円（前年同四半期比18.3％減）、経常利益は141,581千円（前年同四半期比17.5％減）、四半期純利益は65,549千円（前年同四半期比23.9％減）という経営成績となりました。

売上高につきましては、マルチメディア事業セグメントにおける売上高が214,997千円（前年同四半期比67.6％増）と増加したことの影響が、それ以外のセグメントにおける売上高の減少幅を上回ったことにより、全体としては前年同四半期と比べ微増いたしました。また、営業利益につきましては、主としてマルチメディア事業セグメントにおいて営業損失が減少しておりますが、乗換案内事業セグメントにおいて営業利益が減少したことの影響が大きく、前年同四半期と比べ減少いたしております。これにより経常利益、四半期純利益につきましても、前年同四半期と比べ減少いたしております。

なお、従来、一部の連結子会社のサービスにおいて、顧客に付与したポイント使用に伴う負担についてはポイント利用時に費用計上しておりましたが、システムの整備により計算に必要なデータが確保でき、合理的に将来のポイント使用に伴う負担を算定できるようになったことに伴い、第２四半期連結会計期間よりポイント引当金を計上しております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

（乗換案内事業）

乗換案内事業は全体として、売上高・営業利益ともに前年同四半期と比べ減少いたしました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」及びスマートフォン向け有料版アプリケーション「乗換案内Plus」の会員数は、当第３四半期連結会計期間末には合計で約61万人となっております。なお、第２四半期連結会計期間より、新たにAndroid端末向けの有料版アプリケーション「乗換案内Plus」の提供を開始しております。また、株式会社エキスプレス・コンテンツバンクでは「交通情報アクセス」等を提供しております。売上高は前年同四半期と比べ減少しております。

広告につきましては、株式会社エキスプレス・コンテンツバンクでの売上が増加しており、全体として売上高は前年同四半期と比べ増加しております。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同四半期と比べ売上高が減少いたしております。これは主に、店頭販売パッケージの売上が減少しているためであります。

「乗換案内」の法人向け製品の売上高につきましては、前年同四半期と比べ減少しております。これは主に、ASPサービスの「ジョルダンクラウド」などで前年同四半期を下回ったことの影響によるものであります。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」、並びに携帯電話向け「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しております。当第３四半期連結会計期間には先の大震災発生後の出張・旅行の取り止めや自粛の影響も受けており、全体として売上高は前年同四半期と比べ減少しております。

以上の結果、乗換案内事業全体としては売上高915,081千円（前年同四半期比5.8％減）となりました。営業利益につきましては、広告宣伝費等の営業費用の増加もあり、266,019千円（前年同四半期比17.6％減）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、出版につきましては、総合オピニオン誌『表現者』を発行しているほか、「ジョルダンブックス」として書籍を発売しております。当第３四半期連結会計期間においては、『SharePoint 成功への道標』を新たに刊行しております。

また携帯電話向けには、株式会社エキスプレス・コンテンツバンクでは「アクセスBOOKS」「つかえるえもじ」等を提供しており、その売上は大きく増加しております。また、新たに「ゲーム★スター」のサービスを開始しております。当社では、従来から「ハムスター倶楽部」等の提供も行っております。

それらの結果、全体として売上高は大きく増加しております。また、当第３四半期連結会計期間においては利益の獲得には至っておらず営業損失が発生しておりますが、前年同四半期と比べて損失幅は縮小しております。

以上の結果、売上高214,997千円（前年同四半期比67.6％増）、営業損失45,466千円（前年同四半期は65,812千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発及び情報関連機器リース等につきましては、ソフトウェア開発の受注及び売上が減少している影響で、前年同四半期と比べた売上高は減少しており、営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高39,607千円（前年同四半期比15.8％減）、営業損失12,259千円（前年同四半期は7,735千円の損失）となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及び内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

(2) 財政状態の分析

当第３四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成22年９月末）と比較しますと、資産は205,760千円増の4,177,081千円、負債は10,651千円減の923,894千円、純資産は216,412千円増の3,253,186千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、291,806千円増の3,322,069千円となりました。これは、現金及び預金が231,275千円増の2,179,806千円、受取手形及び売掛金が25,423千円増の948,685千円、仕掛品が15,780千円増の29,925千円となったこと等の影響によるものであります。仕掛品が増加しているのは、主に開発途中の受託案件に関してソフトウェア開発が進行していることによるものであります。

固定資産につきましては、86,045千円減の855,011千円となりました。これは、有形固定資産が50,365千円減の193,289千円、無形固定資産が62,160千円減の282,286千円、投資その他の資産が26,481千円増の379,435千円となったことによるものであります。有形固定資産が減少しているのは、主に償却が進んでいることによるものであります。無形固定資産が減少しているのは、のれんが80,490円減の98,279千円となったことの影響が、ソフトウェアが18,329千円増の182,499千円となったことの影響を上回ったことによるものであります。のれんが減少しているのは、主にのれんの償却及び連結子会社株式の一部売却によるものであります。投資その他の資産が増加しているのは、主に繰延税金資産が13,179千円増の41,441千円となったことによるものであります。繰延税金資産が増加しているのは、主に投資有価証券評価損及び子会社株式評価損について税効果を認識していることによるものであります。

負債は、流動負債につきましては、27,758千円増の852,994千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が54,561千円増の310,426千円、未払費用が50,983千円増の154,505千円、前連結会計年度末にはなかったポイント引当金が23,530千円となったこと等の影響が、未払法人税等が89,977千円減の82,275千円、賞与引当金が17,186千円減の50,513千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。支払手形及び買掛金が増加しているのは、主に営業費用が全体として増加傾向であることによるものであります。未払費用の増加及び賞与引当金の減少は、主に賞与支給額の確定によるものであります。ポイント引当金が新たに発生しているのは、連結子会社の一部サービスにおいて合理的に将来のポイント使用に伴う負担を算定できるようになったことに伴い、第２四半期連結会計期間よりポイント引当金の計上を行っているためであります。未払法人税等が減少しているのは、主に法人税等の支払いによるものであります。

固定負債につきましては、38,410千円減の70,900千円となりました。これは、長期借入金が45,810千円減の60,500千円となったこと等によるものであります。長期借入金が減少しているのは、主に長期借入金の返済によるものであります。

純資産は、株主資本につきましては、173,766千円増の3,148,663千円となりました。これは、四半期純利益215,417千円が、剰余金の配当41,651千円を上回った影響で、利益剰余金が173,766千円増の2,610,940千円となったことによるものであります。

少数株主持分につきましては、42,645千円増の104,523千円となりました。これは主に、連結子会社である株式会社エキスプレス・コンテンツバンクの株式の一部を同社の役員に譲渡したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第３四半期連結会計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、第２四半期連結会計期間末と比べ112,095千円増の965,696千円となりました。

当第３四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは135,576千円の収入（前年同四半期比13.0％増）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、売上債権の減少額が42,692千円（前年同四半期は増加額が4,263千円でその差46,956千円）、仕入債務の増加額が20,620千円（前年同四半期は減少額が3,594千円でその差24,214千円）となった影響等が、たな卸資産の増加額が12,175千円（前年同四半期は減少額が29,958千円でその差42,134千円）、税金等調整前四半期純利益が29,982千円減の141,581千円となった影響等を上回ったことであります。売上債権の減少額が増えた主要因は、当第３四半期連結会計期間の売上高が第２四半期連結会計期間と比較してやや減少傾向であることに対し、前年同四半期におけるそれはほぼ横ばいで推移していたことであります。たな卸資産の増加額が増えた主要因は、当第３四半期連結会計期間においては開発途中の受託案件に関してソフトウェア開発が進行していることから仕掛品が増加しておりますが、前年同四半期においては進行していたソフトウェア開発が完了したことにより仕掛品が減少していたことであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フロー16,785千円の支出（前年同四半期比75.6％減）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、有形固定資産の取得による支出が53,692千円減の310千円となった影響が、定期預金の払戻による収入が8,716千円減の8,500千円となった影響を上回ったこと等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは6,294千円の支出（前年同四半期は43,572千円の収入）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、前年同四半期にあった長期借入れによる収入50,000千円がなくなったこと等であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第３四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第３四半期連結会計期間の研究開発費の総額は11,707千円であります。

セグメント別の研究開発活動を示すと、乗換案内事業においては、主に、Android端末向け「乗換案内」及び、パソコン向け新規サービスについて研究開発を行いました。マルチメディア事業においては、NHN Japan 株式会社との共同開発により、スマートフォン向けゲームアプリ「乗換戦記バトステZ」の開発を当第３四半期連結会計期間において完了し、提供を開始いたしております。また、連結子会社の株式会社エキスプレス・コンテンツバンクにおいて、モバイル向けコンテンツサービスの研究を進めております。